

あの日のあの川 リレー日記 ～第64話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第64話主人公 福田皓気

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県 手賀沼(利根川))

「童心とノスタルジー」

いつのこと？： 学生時代

どこの川？： 千葉県手賀沼・利根川

物心がついてから現在まで、数多とは言えないまでも河川・湖沼に関連した思い出が幾つか脳裏をよぎります。今回はそんな思い出の中から、地元の川・沼についてふと思い出したことをとりとめもなく綴ろうと思います。

通っていた小学校から少し歩くと、小高い土手に辿り着きます。土手沿いには道路が舗装されており、道路沿いを歩いていると、犬の散歩をしている老夫婦やロードバイクでひた走る青年とたびたびすれ違います。土手の向こう側には利根川が流れており見渡す限り田圃が広がっています。川と田圃を挟んで反対側はもう茨城県で、利根川は私の地元の千葉県と茨城県との県境の役割を果たしています。

手つなぎ遠足という風習が全国的なものなのか、私が通っていた小学校特有のものなのかはわかりませんが、この土手沿いは手つなぎ遠足のルートでした。年上のお兄さんに手を引かれながら、土手の向こうにある陸上自衛隊訓練場のカッコよさに心を惹かれ、自分達で作った段ボール製のそりで土手滑りし、川を眺めながらお弁当を食べる。もう十数年前の出来事と考えるところはかたなく不思議で、それでいて心が締め付けられるようななんとも言えない心情にさせられます。今の私が車を運転して5分でたどり着ける、自転車を漕いで10数分でたどり着けるころを、当時の“ボク”は1時間ほどかけて歩かなければなりません。今の私が眺めて10分ほどで飽きてしまうような光景を、当時の“ボク”は馬鹿みたいに口をポケッと開きながらただひたすら眺めていることが出来ました。幼い“ボク”が汗水たらして辿り着いた先によく見ることが出来た、目に映る自然の風景は、まだまっさらな“ボク”のキャンパスに彩りを与えてくれました。今見ても「夕日がきれいだな」・「川や田んぼの色彩が鮮やかだな」という感想は持ちますが、当時のように時間を忘れるほどの感動を得ることが出来ないことを少し寂しくも感じます。それと同時に、地元で河川や自然が溢れていたことは魅力的なことだったのだと実感しています。夏の午後の入道雲や、日の入りが

早くなる秋の夕暮れにノスタルジーを感じるように、私は地元の土手に郷愁を覚えますが、皆さんにも似たような記憶はあるでしょうか。是非一度想いを馳せてみてください。

さて、もう一つ記憶に強く残っているのが利根川水系の手賀沼です。手賀沼といえば一時期日本一汚い水質という不名誉なテーマで話題になっていました。現在水質は改善されつつありますが、外来種の増加という日本の様々な場所で発生している問題を抱えています。また、皆さんにとっても興味深そうな話としては、ディズニーランドの誘致場所の候補になったことがあるということでしょうか。現在舞浜にあるディズニーランドですが、実は手賀沼を埋め立てて誘致するという話もあったとかなかったとか…もしかしたら、手賀沼ディズニーランドが出来ていたかもしれないと考えると面白いですね。

余談はさておき、手賀沼で思い出す私の思い出は、芋パイと河童・それに花火大会です。まず、芋パイというのは単純に手賀沼沿いのお店で売っていたサツマイモパイのことです。偶に手賀沼の方に車で向かうことがあると、親にねだって毎回購入してもらっていました。程々に甘くて美味しかったのですが、幼かった私が店名を覚えていたなんて事は当然のごとくなく、もう 10 年以上味わえていません。知っている方がいらっしゃれば是非情報を頂きたいくらいにもう一度味わいたい味です。河童というのは、手賀沼にまつわる伝説で、私の記憶の限りでは手賀沼には河童の像が数カ所設置されていたと思います。遠足の際に船の上からいくつか見かけた記憶があります。

最後の花火大会は、手賀沼で毎年のように行われていた恒例行事です。ここ数年はコロナで開かれていませんし、資金難で何度か開かれなかったことがあったとは思いますが、幸運なことに私は 2 回現地で見る事が出来ています。手賀沼の花火大会に赴いたのは中学生のときと高校生のときの 2 回なのですが、大きく分類すると前者は悪い思い出・後者は良い思い出です。手賀沼の花火大会は、それはもう大盛況でして、電車で行こうとするとなかなか駅から出られないほどの人が集まります。毎回開催されるのは夏休み期間ですので、ご想像の通りたださえ蒸し暑い中に行われます。それに加えて駅で人の熱気に包まれながら人が多すぎて動けないわけですから、余程我慢強い人で無ければストレスを感じるはずですが、少し言い訳をさせていただくと当時の私たちは中学生でした。ということで、当然のごとく不機嫌になりケンカになってしまったというわけです。せっかく良い思い出になるはずが、ケンカで終わってしまった苦い思い出です。一方で 2 回目に赴いた高校生の時は中学生の時よりは大人になっていたのでケンカも無く過ごすことができました。人は成長するものですね！

ここまで、私の河川や湖沼に関する記憶を掘り起こしてみました。川の紹介では無く自分自身の経験を皆さんに共有する形になりました。持論になりますが、人にとって重要なのはその物がどのように自身に関わってくるかだと思います。ただ BOD の数値がいくつであるとか、流域面積がどれだけであるとか、情報としての川について知ってもそれほど興味は湧かないのかなと思います。もちろん数値や情報だけで興味を抱ける人は素晴らしいと思いますが、そうではない方は是非ご自身の経験と紐付けて物事を捉えてみてください。川も自然も人の営みとともに存在するものですし、少なからず関わった経験があるはずですが、「夏に川遊びをして冷たかった」でも、「近所の川が汚くて不潔だった」でも何でも良いと思います。そのようなご自身の体験から「なぜこの川は川遊びに適しているのか」、「この川は見るからに汚いけど水質はどの程度なのか」などという疑問が発生して情報に価値が生まれてくるのだと思います。釈迦に説法かもしれませんが、是非皆さんも川に関する身の回りの体験に目を向けてみてください。もしかしたら、川の魅力にとりつかれてしまうかもしれませんよ！

(次は坂井友亮さんにバトンを託します)